

**兵庫県立加古川病院**

〒675-8555
加古川市加古川町粟津770-1
TEL.0794-23-0001
FAX.0794-23-3820
E-mail.kenkako@blue.ocn.ne.jp
<http://www6.ocn.ne.jp/~kakogawa/>

広報誌第3号**副院長 加堂 哲治****地域医療連携室の開設**

平成16年10月より、県立加古川病院にも地域医療連携室を開設しました。地域医療連携の推進についての趣旨は、県立病院構造改革推進方策に基づき、限られた医療資源を有効に活用し、良質な医療を県民に効果的、効率的に提供していくため、患者紹介システムの充実や医師会、他の医療機関等との連携強化を図るなど、地域医療連携を一層推進し、患者様にとって安心してかけられる県立病院を実現することにあります。

このため平成16年度より、患者様の紹介受診などの「前方連携」に加え、他の医療機関への逆紹介や福祉施設等との連携などの「後方連携」や地域の医療機関や医療従事者をサポートする「側方連携」についても積極的に推進するために、組織体制の充実、強化が図られることになりました。具体的には各病院に医療連携担当参事（県立加古川病院では副院長兼務）の設置、そして看護部（看護部次長兼務）、医事課（医事課長兼務）および医事委託職員、MSW（医療ソーシャルワーカー）のスタッフのもとに地域医療連携部を設置することです。

地域医療連携室は、県立12病院中、加古川病院・光風病院・粒子線医療センター・災害医療センターを除く8病院にすでに設置されており、加古川病院は一般病院の中で唯一設置されていませんでした。このため新患予約・高額医療機器検査予約はなんとか行われていたものの、患者様を紹介されても、その後の受診状況や経過の情報等が密に報告されていないため、スムーズな連携が図れていなかったことや、窓口が一本化しておらず、責任体制も明確ではありませんでした。

さらに今回病院局から地域医療連携部を中心にした、次のような業務の基本的方針が示されました。

1. 患者紹介システムの充実
2. 高額医療機器の有効活用
3. オープン病床の設置・有効活用
4. 地域の医師による外来診療（オープン外来）への対応
5. 医師会等との協議の場の設置、充実
6. 医療技術向上のための教育研修の充実
7. 地域との合同症例検討会の充実
8. 訪問看護事業との連携
9. 保健所や市町等が実施する保健事業への協力

このいずれをとっても、現在の県立加古川病院では十分対応しているとは言えません。病院機能評価でも、これらの多くの事柄の推進が要求されています。

当面地域医療連携室は医事課内に設置しますが、ここを起点に患者様はもちろん、地域の医療・福祉関係者、在宅医療・在宅看護の提供者とも密接に連絡を交わしていく予定です。そしてそれぞれの機能分担を進めていくことが、患者様に最も適切な医療を提供することになるものと考えています。

病院トピックス

薬剤部

**注射薬の無菌混合調製を始めています
安全、安心な医療を実践しています**

近年、高度医療が目覚ましい発達、分子標的薬をはじめとする医薬品の進展と相まって、患者様の医療に対するニーズが高揚してきています。そうした中で、患者様のリスクの軽減に努め、医療チームの一員として、より良質な薬物治療の提供、特に抗がん剤等医薬品の適正使用を推進し、その有効性と安全性を確保することにより患者様に貢献することが、薬剤師業務に求められていると思います。

当院では、平成16年3月から、薬剤部内に無菌製剤室を設けて、「細胞毒性のある注射薬剤」及び「高カロリー輸液」について、薬剤師が専門的知識をフルに活用して、無菌製剤の混合調製業務をスタートしました。

当院薬剤部では、従来から、化学療法に使用される細胞毒性のある注射薬の使用に際しては、プロトコルの収集、管理により患者様ごとに薬歴管理を行い、使用薬剤の投与量、投与方法、休薬期間等をチェックして抗がん剤使用の適正化に取り組んできました。さらに薬剤師が実地に混合調製に携わることは、医療現場に薬学的分野が幅広く活かされ、服薬指導の面からも薬物療法の効果等について、より精度の高い評価が可能となり、患者様の満足度向上に大きく繋がるものであると期待できます。

薬剤部での注射薬の混合調製は、微生物汚染や微粒子の混入を防止するために清潔な環境中において無菌的に行っています。薬剤部内に新しく設置した調製室は、間仕切りにより2つの部屋から構成されており、手前の1つの部屋（約16㎡）では、クリーンベンチを2台配し、高カロリー輸液の無菌製剤処理と湿式製剤類の調製を行っています。また、奥側のもう1つの部屋（17㎡）は、抗がん剤注射薬の無菌混合製剤処理の専用室になっています。抗がん剤専用の安全キャビネットのほか、鑑査用作業台、流し台等を配置し、調製者は、薬剤による接触保護等の安全対策を講じ、手袋、ガウン、マスク、キャップを着用し



て薬剤の混合調製を行っています。また、調製後においては、徹底した薬剤鑑査、を励行しています。



開始以来、薬剤部全員が一丸となって、この業務に取り組んでおり、リスクマネジメントの面から、またチーム医療の相互連携の観点からも、スムーズに進行してきています。今後とも、患者様にとって、より適切で安全な薬物療法ができるよう力をあわせて、より一層頑張っていきたいと思っていますので、よろしくお願ひします。

看護部紹介

中央4階病棟

スタッフのホットな笑顔が自慢です



当病棟は4月より産科の休診に伴い17名体制になりました。現在は、婦人科、外科、内科、泌尿器科、整形外科、耳鼻科などの患者様が入院されています。

婦人科では、子宮筋腫や卵巣腫瘍をはじめ、子宮癌などの悪性疾患に対し積極的な治療をおこなっています。

クリニカルパスを導入し、治療について患者様にも分かりやすく経過をご説明しています。現在

では、ターミナル期の患者様も多くなりましたが、同じ女性として患者様同士が和やかに毎日を送っていただける環境や、可能な限り患者様の話に耳を傾けられる時間の工夫を考えています。

これからも、益々多くの疾患の看護を行っていく中で、院内のそれぞれの科と協力し合って、患者様の安全を第一に、快適な入院生活が出来るように努めていきたいと思えます。患者様一人一人の病状は異なりますが、私たちの病棟はチームワークがとても良く、笑顔、やさしさを持ってサポートしています。女性患者様の看護は、どうぞ中央病棟4階の私たちにお任せください。



東4階病棟

東4階(内科病棟)は、 病床数48床でスタッフは19名です



私たちは、「患者様が安心、安全に入院生活を送ることができる」をモットーに頑張っています。

入院患者様は、高齢者が多く疾患としては、糖尿病、肝疾患、悪性疾患、高血圧等が多く又入院を繰り返される方もいらっしゃいます。最近、肝生検、アンギオ、ラジオ波による肝疾患の診断治療が行われています。

また入院中困ったことなど医療相談室と連携を取り相談にのっています。

また入院中の患者様、外来の患者様、家族どなたでも参加していただける、糖尿病教室を開催しています。

そして患者様に少しでも癒しの場として活用していただけたらと思病棟の限られたスペースを利用し、本やお知らせコーナーを作りましたどうぞご利用下さい。

診療部紹介



当外科は、日本外科学会認定施設、日本消化器外科学会専門医修練施設の指定を受けており、5名の経験豊かなスタッフが活躍しています。取り扱う疾患は、癌の手術が多く、甲状腺癌、乳癌、食道癌、胃癌、大腸癌、直腸癌、肝癌、胆のう癌、胆管癌、膵臓癌などの手術を多数行っています。

癌の治療は、早期の癌については手術が中心となり、進行した癌については、手術だけでなく放射線治療、抗がん剤を使った化学療法をうまく組み合わせることが重要です。

当院では今年の春に新しい放射線治療機器が整備され、県下でもトップクラスの治療精度を誇るシステムが作られました。また化学療法については、抗がん剤の投与量、投与方法について医師と薬剤師が2重にチェックをし、安全性を高めています。また、外科外来においては、化学療法室を整備し、患者さまにより快適に治療が受けられるように工夫をしています。

癌以外の疾患では、胆石症の腹腔鏡下手術、ヘルニア（ソケイヘルニア、腹壁癒痕ヘルニア）の新しい治療（メッシュ、パッチの使用）、肛門疾患（痔核、痔ろう、裂肛）の新しい治療法（ハーモニックの使用など）、虫垂炎の手術、下肢静脈瘤の手術などを行っています。

昨年1年間約600例の手術を外科で施行しましたが、主な手術症例数をご紹介します。

甲状腺の手術	3例	肝癌の手術	2例
乳癌の手術	83例	胆石の手術	43例
食道癌の手術	5例	(腹腔鏡によるもの32例)	
胃癌の手術	39例	膵臓癌の手術	5例
大腸・直腸癌の手術	48例	ヘルニアの手術	54例
(腹腔鏡によるもの2例)		下肢静脈瘤の手術	4例
虫垂炎の手術	11例	肛門の手術	69例

これらの手術を行うに当たって、私どもは、常に次のことに留意しています。

- 1) 患者さま一人一人について、どのような治療が最も適しているか、スタッフみんなで検討し、治療法についての詳しい説明を行い、患者さま納得の上で手術を行う。
- 2) きめの細かい丁寧な手術を行うことによって、術後の合併症を最小限にする。
- 3) 常に患者さまの気持ちを理解するように努める。

眼科

眼科外来を紹介します



当科は地域の中核病院として大勢の患者様にきていただき毎日診療は活気に溢れております。

そのため毎日待ち時間が大変長くなり患者様には大変ご迷惑おかけしております。

医師4名、視能訓練士（視力検査などします）3名、看護師2名で構成されており全員女性です。

診療内容は多岐にわたっており、白内障、緑内障をはじめ特に糖尿病の患者様が多く、糖尿病網膜症で視力に障害が残る方が一人でも減るよう日々努力しています。またほかに斜視や子供の弱視の治療、

最近ロービジョン外来（視力の悪い方にいろいろな道具を使って見やすくするようにする）やボトックス療法（まぶたや顔がピクピクすることに対する治療）も始めました。また最近話題の黄斑変性症に対してはICG造影という特殊検査が可能です。

手術は月曜午後・水曜午前午後・木曜日午後に行っております。手術の内容としては、通院で斜視・逆まつげ・眼瞼下垂（瞼が下がって見えにくい）・涙道（涙が必要以上に出る）・翼状片（黒目にかかる白い膜）の治療をしております。白内障は入院のみでなく、外来による通院手術も行っております。また全身麻酔による手術も可能です。安静が取れない方でも視機能が残っていれば白内障手術でQOL（生活の質）をあげることが出来る場合があります。その他緑内障・網膜剥離・糖尿病網膜症・黄斑上膜・黄斑円孔などの硝子体手術もおこなっています。

今後も地域の皆様に信頼されるよう日々精進してまいりますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。

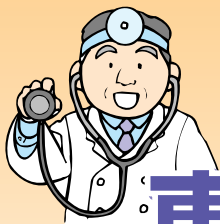


基本理念

常に最良の医療の提供と、疾患の予防に努め、地域と県の安寧と発展に資することを目標とします。

基本方針

- 1 地域の中核病院として、医療内容を充実するとともに、急性期医療を提供します。
- 2 患者様本位のより良質な医療を提供できるよう自己研鑽に努めます。
- 3 地域の医療連携のもと、生活習慣病の予防と早期発見・早期治療に努めます。



生活習慣病 専門外来を開設

県立加古川病院は、4月から新しい試みとして、生活習慣病専門外来を開設いたしました。

この専門外来は肝臓疾患・心疾患・高血圧・糖尿病・更年期疾患等
いわゆる生活習慣が深く関連している病気の早期治療を行います。
患者様それぞれの生活習慣などを考慮した治療、指導の窓口です。

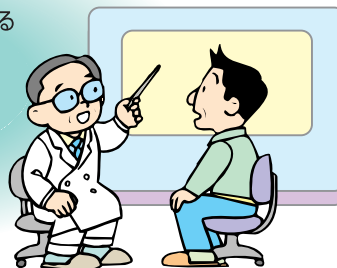
病気の説明や、今後の治療方針を詳しくお伝えするために、

完全予約制とし、診察時間を充分お取りいたします。

疲れやすい・ふらつきやめまいがある・体がむくんでいる
食欲がない・やせてきた・顔色が悪い・動悸がする
夜中のいびきがうるさいと言われる・肥満
なかなか眠れない・肩こり・ほてり・イライラなど

健康診断で再検査になった

このような症状
ありませんか？



午後2時から4時の間、専門医が診察いたします。

月曜日	火曜日	木曜日	金曜日
肝臓病	婦人病	糖尿病	循環器病

何でも
ご相談
ください。



●お申し込み及びお問い合わせ

予約専用電話 0794-56-7225

または、医事課②番窓口にて受付致します。

受付時間は午前9時から午後5時まで

県立加古川病院

〒675-8555 加古川市加古川町粟津770-1

代表電話 0794-23-0001

病院ボランティア募集中！

連絡先は、総務課 赤松

編集後記

平成16年度、生活習慣病専門外来や地域医療連携室が開設されました。
これからも患者様に適切な医療を提供できるよう頑張っていきます、そして皆様に紹介したいと思います。

編集委員 尹 聖哲・桑島恭二・原田亮輔・福田優子・峯垣明美・辻本浩子・赤松幸和